

Qlik.QSBA2024.v2025-03-26.q17

試験コード:	QSBA2024
試験名称:	Qlik Sense Business Analyst Certification Exam - 2024
認定資格:	Qlik
無料問題数:	17
バージョン:	v2025-03-26
アクセス数:	271
ページビュー数:	170
https://www.jpnpdf.com/Qlik.QSBA2024.v2025-03-26.q17-mondaishu.html	

最新問題: 1

顧客は、さまざまなチームに販売データを配布する必要があります。社内アナリストチームは、データのグローバルビューを必要としています。販売チームは、モバイルデバイスアクセスを必要としています。

どちらのソリューションが両チームのニーズを満たすでしょうか?

- A. モバイルユーザー向けの特定の拡張機能を備えた 1 つのアプリ
- B. 2 つのアプリ: 1 つはモバイル用に設計され、もう 1 つは社内使用用に設計されています
- C. さまざまなオブジェクトを組み合わせたマッシュアップ
- D. さまざまなオブジェクトを含む 1 つのアプリ

Answer: B (メッセージを残す)

社内アナリストチームと営業チームの両方のニーズを満たすには、モバイル用に特別に設計されたアプリと社内用に設計されたアプリの 2 つを別々に作成するのが最善の解決策です。モバイルデバイスでは、よりシンプルでタッチに最適化されたレイアウトなど、さまざまな UI を考慮する必要がありますが、社内チームは、デスクトップ用に最適化されたより詳細なアプリのメリットを享受できます。別々のアプリを設計することで、両方のチームが特定のデバイスとユースケースに適したカスタマイズされたエクスペリエンスを利用できるようになります。

重要な概念:

モバイル最適化: モバイルデバイスでは、小さい画面に合わせて合理化され最適化されたアプリが必要ですが、デスクトップコンピューターを使用する社内ユーザーは、より複雑なレイアウトや詳細なレポートを処理できます。

個別のアプリ: 個別のアプリを作成することで、各チームがニーズに合わせてカスタマイズされた最高のユーザーエクスペリエンスを実現できます。

他のオプションがあまり適していない理由:

A. モバイル ユーザー向けの特定の拡張機能を備えた 1 つのアプリ: 拡張機能はモバイル機能のある程度提供できますが、完全にモバイル フレンドリーなエクスペリエンスに必要な柔軟性と最適化は提供されません。

C. さまざまなオブジェクトを含むマッシュアップ: マッシュアップは柔軟性を提供しますが、この要件に対して複雑すぎる可能性があり、必ずしも最適なモバイル エクスペリエンスを提供するとは限りません。

D. さまざまなオブジェクトを含む 1 つのアプリ: モバイル ユーザーはデバイスに最適化されていないオブジェクトの操作に苦勞する可能性があるため、両方のチームのユーザーエクスペリエンスが複雑になる可能性があります。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

モバイル アプリとデスクトップ アプリの設計: Qlik Sense では、デスクトップ ユーザーとモバイル ユーザーの両方に最適なユーザー エクスペリエンスを確保するために、特定のデバイス向けにアプリを最適化することを推奨しています。

したがって、B はモバイル セールス チームと社内アナリスト チームの両方にとって最適なソリューションを提供するため、検証済みの回答となり、正解となります。

最新問題: 2

営業マネージャーは、顧客ディメンションまたは製品カテゴリ ディメンションを選択するときに、売上と利益率の関係を調査して、この関係が線形であるかどうかを判断します。

営業マネージャーは、営業プロセスの各ステージ (初期から受注まで) の潜在的な売上率を把握したいと考えています。

どの視覚化がこれらの要件を満たすでしょうか?

A. 散布図: メジャー X 軸は売上、Y 軸は利益、ディメンションは顧客または製品カテゴリ、棒グラフ: ディメンションはステージ、メジャーは売上

B. 散布図: メジャー X 軸売上と Y 軸マージン、代替ディメンション 顧客または製品カテゴリ
ファネル チャート: セグメント ステージ、幅売上

C. コンボ チャート: 売上とマージンを測定、顧客または製品カテゴリをディメンション
円グラフ: ステージをディメンション、売上を測定

D. 分布図: 代替メジャー売上とマージン、代替ディメンション顧客または製品カテゴリ
棒グラフ: ディメンションステージ、メジャー売上

Answer: B (メッセージを残す)

売上とマージンの関係を分析するには、散布図が最適です。散布図では、顧客や製品カテゴリなどのさまざまなディメンションにわたって 2 つのメジャー (売上とマージン) の関係を視覚化できます。ファネル チャートは、販売プロセスの各段階を視覚化するのに最適です。ファネル チャートでは、各セグメントの幅が各段階の合計売上を表し、最初の段階から最後の段階 (受注) まで売上がどのように進行するかが示されます。

重要な概念:

散布図: このタイプのグラフは、2つのメジャー間の相関関係または関係を視覚化するように特別に設計されており、さまざまなディメンションにわたって売上と利益を分析するのに最適です。

ファネルチャート: このチャートは、セールスファネルの各ステージを通過する売上の割合を視覚的に示すため、セールスステージを視覚化するのに特に適しています。

他のオプションがあまり適していない理由:

- A. 散布図と棒グラフ: 散布図は売上と利益の分析に適していますが、棒グラフではファネルグラフほど効果的に販売プロセスのさまざまな段階を適切に表すことができません。
- C. 複合グラフと円グラフ: 複合グラフは潜在的に有効ですが、売上と利益の関係を散布図ほど明確に表示することはできません。円グラフは、販売ファネルの段階を表すのにもあまり効果的ではありません。
- D. 分布プロットと棒グラフ: 分布プロットでは2つのメジャー間の関係を効果的に表示できず、棒グラフは販売プロセスの段階を視覚化するのに最も適した選択肢ではありません。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

関係の散布図: このグラフの種類は、売上と利益など、2つの連続変数間の関係を調べる場合に強く推奨されます。

ファネルチャート: 最初のエンゲージメントから最終的な販売までの販売段階など、プロセスのさまざまな段階を通じてデータがどのように移動するかを視覚化するのに最適です。

したがって、散布図とファンネルチャートの組み合わせが最適なソリューションとなり、Bが正解となります。

最新問題: 3

組織内の2人の顧客が、財務データセットを含むアプリを使用したいと考えています。分析の目的が異なるため、各顧客はそのデータのサブセットのみを使用します。ビジネスアナリストはどの手順に従う必要がありますか?

- A. セクションアクセスを適用して各顧客のデータを管理する
- B. セット分析を使用して複数の視覚化を作成する
- C. 各顧客のアプリを複製して名前を変更する
- D. ピボットを解除し、各顧客のデータテーブルを再度関連付けます。

Answer: B (メッセージを残す)

Qlik Sense では、セット分析は、ビジネスアナリストが同じアプリ内で異なるデータのサブセットを管理するために利用できる最も強力なツールの1つです。両方の顧客が同じ財務データセットで作業していますが、目的は異なるため、セット分析を使用して複数の視覚化を作成することで、アナリストはアプリを複製したり複雑なデータモデルを作成したりすることなく、各顧客に合わせてデータビューをカスタマイズできます。

重要な概念:

セット分析: この機能を使用すると、データのサブセットを定義する式を作成できるため、特定の視覚化内でデータをフィルター処理できます。これは、複数のユーザーが同じ基礎データセットから異なる分析情報を必要とする場合に最適です。

柔軟性: セット分析を使用すると、個々の視覚化内で条件を指定できるため、各ユーザーは他のユーザーに影響を与えることなく、データの独自のセグメントに集中できます。

効率性: この方法では、複数のアプリを複製して維持したり、セクション アクセスなどの複雑なロジックを適用したりする代わりに、1つのアプリと1つのデータモデルのみが必要になるようにすることで冗長性を回避します。

他のオプションがあまり適していない理由:

A. セクション アクセスを適用する: セクション アクセスは、セキュリティを管理し、データセット全体でユーザーが表示できる内容を制限するのに便利ですが、主にユーザー ロールに基づいてデータ アクセスを制限するように設計されています。この場合、両方のユーザーが同じデータセットにアクセスする必要がありますが、異なる分析を実行します。このシナリオでは、セクション アクセスは過度に制限的で複雑なソリューションになります。

C. アプリを複製して名前を変更する: これは冗長性をもたらし、メンテナンスが困難になるため非効率的です (例: データセットや視覚化への変更は両方のアプリに適用する必要があります)。また、アプリのバージョン間で不整合が発生するリスクも高まります。

D. データ テーブルをアンピボットして再度関連付ける: このオプションは問題とは関係ありません。アンピボットは、同じアプリ内の異なるユーザー向けにビューを調整するよりも、データセットを変換する方が適しているためです。顧客固有の分析目標のニーズには対応していません。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

セット分析: Qlik Sense Business Analyst のツールキットでは、セット分析は単一のアプリ内で多様なデータ サブセットを管理する方法として取り上げられており、コンテンツを重複させることなく、マルチユーザー環境に必要な柔軟性を提供します。

効率的なアプリケーション設計: ベスト プラクティスでは、一貫性とメンテナンスの容易さを確保するために、可能な限り単一のアプリを維持することが推奨されており、これは Set Analysis を使用するアプローチと一致しています。

Set Analysis を使用すると、単一のアプリ内で簡単に管理および更新できるカスタマイズされたデータ ビューを両方の顧客に提供できます。これが、オプション B が最も効果的で検証済みのソリューションである理由です。

最新問題: 4

ある企業が最近 Qlik Sense を導入しました。ユーザーは自然言語の質問を使用してコンテンツを作成したいと考えています。この目標を達成できるのはどの機能ですか?

- A. 高度なオーサリング
- B. ストーリーとブックマーク
- C. インサイトアドバイザーチャット

D. 連想エンジン

Answer: C (メッセージを残す)

Qlik Sense では、Insights Advisor Chat は、ユーザーが自然言語の質問を通じてアプリを操作できる機能です。このツールは、Qlik の高度な AI と機械学習機能を活用して、自然言語のクエリを解釈し、分析に関連する洞察、視覚化、または提案を生成します。

A. 高度なオーサリング

高度な作成は、詳細な視覚化とレポートを作成するために設計された Qlik Sense のツールセットですが、自然言語による対話機能は含まれていません。会話型のクエリよりも、カスタマイズと正確な設計に重点を置いています。

B. ストーリーとブックマーク

Qlik Sense のストーリーテリングとブックマークは、データを物語形式でプレゼンテーションし、分析の特定の状態を保存するためのツールです。自然言語で質問したり、自動的に洞察を生成したりする機能は提供されません。

C. インサイトアドバイザーチャット

正解は Insights Advisor Chat です。この機能を使用すると、ユーザーは自然言語の質問を入力してデータを操作できます。システムはそれを解釈して、チャート、KPI、その他の洞察を含む適切な応答を生成します。これは、自然言語を通じてデータ探索をより直感的でアクセスしやすいものにするので、技術者以外のユーザーを支援するように設計されています。

D. 連想エンジン

連想エンジンは、Qlik Sense が大規模なデータセットを処理し、それらに対して連想検索を実行できるようにする基盤となるテクノロジーです。データ探索には強力ですが、Insights Advisor Chat のように自然言語クエリ用の直接インターフェースは提供されません。

主な Qlik Sense ビジネスアナリスト参考資料:

Insights Advisor Chat は、データの専門家でなくてもユーザーが自然言語で質問し、有意義な回答を得ることができる Qlik Sense の機能です。

これは、ガイド付きの洞察を提供し、自然言語クエリを通じてユーザーがデータ内の関係性を発見できるようにすることで、ユーザー エクスペリエンスを向上させる、Qlik Sense の広範な拡張インテリジェンス ツール セットの一部です。

この機能により、複雑なデータ クエリ手法に慣れていないビジネス ユーザーでもデータ探索が簡単になります。

したがって、ユーザーが Qlik Sense で自然言語の質問を使用できるようにする機能は、Insights Advisor Chat です。

最新問題: 5

ビジネス アナリストは、範囲を含む連続スケールを使用して、時間の経過に伴う 2 つのメジャーを比較する視覚化を作成する必要があります。メジャーは、利益と収益です。ビジネスアナリストはどの視覚化を使用すべきでしょうか？

- A. 折れ線グラフ
- B. 箇条書きチャート
- C. 棒グラフ
- D. 散布図

Answer: A (メッセージを残す)

折れ線グラフは、2つの連続した指標(利益と収益)を時間の経過とともに比較するのに最適な視覚化です。折れ線グラフは、連続したスケール(時間など)での傾向とパターンを示すように設計されているため、利益と収益が一定期間にわたってどのように変化するかを観察する必要があるこのシナリオに最適です。

重要な概念:

連続スケール: 折れ線グラフは、時間などの連続データに特に適しており、複数の測定値の時間の経過に伴う変化を追跡する場合に適しています。

二重メジャー比較: 折れ線グラフを使用すると、同じ軸に2つのメジャーをプロットできるため、同じ期間の傾向を簡単に比較できます。

他のオプションがあまり適していない理由:

B. ブレットチャート: ブレットチャートは、2つの指標を時間の経過とともに追跡するのではなく、1つの指標をターゲットと比較するために使用されます。

C. 棒グラフ: 棒グラフは、時間の経過に伴う連続的な測定値ではなく、カテゴリデータの比較に適しています。

D. 散布図: 散布図は2つの測定値間の関係を比較するために使用されますが、連続した時間ベースの比較には適していません。

Qlik Sense Business Analystの参考資料:

時系列データの折れ線グラフ: 折れ線グラフは、特に利益や収益などの連続データを扱う場合に、Qlik Senseで複数のメジャーを時間の経過に沿って比較するための推奨される視覚化です。

したがって、このシナリオでは折れ線グラフが最適な選択であり、正解はAになります。

最新問題: 6

ダッシュボード開発者はサプライチェーン分析アプリの作成を完了し、レビューのために経営陣に提示しています。ランディングページには、次の4つの視覚化が表示されます。

- * 製品カテゴリ別に利用可能な供給量を示す棒グラフ
 - * 倉庫への配送にかかる総コストを月別・年別に示した折れ線グラフ
 - * 製品別の配送コストと配送時間を示す散布図
 - * ラインレイヤーを使用してサプライヤーから倉庫への配送量を示すマップ
- 経営陣は開発者に、配送全体の総コストをどのように確認できるかを尋ねます。アナリストはどのようにしてこの情報を経営陣に示すことができますか?

- A. 折れ線グラフを使用して各月と年を合計し、必要な数値を取得します。
- B. 配送の総コストを示すKPIオブジェクトを作成する
- C. 配送コストを反映するようにマップ上のラインレイヤーを調整します
- D. 散布図内のすべての商品を選択して、配送コストの合計を確認します。

Answer: B (メッセージを残す)

Qlik Sense では、経営陣が総配送コストなどの高レベルの概要を要求した場合、この情報を提示する最も効率的な方法は KPI オブジェクトを使用することです。KPI オブジェクトは、単一の重要なメトリックをシンプルで明確な形式で表示するように特別に設計されています。

A. 折れ線グラフを使用して各月と年を合計し、必要な数値を取得します。

このオプションは、各期間の折れ線グラフの値を手作業で合計する必要があるため、効率的ではありません。また、この方法は人為的エラーが発生しやすく、プレゼンテーション中に時間がかかります。

B. 配送の総コストを示す KPI オブジェクトを作成します。

ここで最も適切なアクションは、KPI オブジェクトを使用して、配送にかかる総コスト全体を表示することです。Qlik Sense の KPI は、単一の集計メジャーをわかりやすく簡潔に表示するように特別に設計されており、経営陣に概要を示すのに最適です。

C. 配送コストを反映するようにマップ上のライン レイヤーを調整します。

マップを調整することは可能ですが、マップは主に空間分析に使用されます。配信の全体的なコストを反映するようにマップを変更することは、KPI オブジェクトを使用するほど直感的でも効果的でもありません。さらに、不要な混乱や視聴者の混乱を招く可能性があります。

D. 散布図内のすべての製品を選択して、配送コストの合計を確認します。

散布図は変数間の関係 (配送コストと配送時間) を示すように設計されているため、散布図内のすべての製品を選択しても、望ましい結果は得られません。総コストなどの集計値を表示するには適していません。

主な Qlik Sense ビジネスアナリスト参考資料:

KPI オブジェクトは、総配送コストなどの単一の主要指標を表示するのに最適です。高レベルのパフォーマンス指標をわかりやすく視覚的に明確に表現します。

ダッシュボード開発のベスト プラクティスでは、詳細なデータ ニーズと高レベルのデータ ニーズの両方に対応する特定の視覚化を作成することの重要性を強調しています。KPI オブジェクトは、特にリーダーシップ プレゼンテーションにおいて、高レベルの要約のニーズを満たします。

したがって、リーダーシップに総配信コストを示す最良の方法は、KPI オブジェクトを作成することです。

最新問題: 7

財務担当副社長は、経営幹部との月例会議で財務情報を共有できる、わかりやすいソリューションを求めています。月例会議の議題を考慮すると、ソリューションはカスタマイズ可能である必要があります。

この要件を満たすには、どの Qlik Sense 機能を実装する必要がありますか?

A. ストーリーテリング

B. インサイトアドバイザーチャット

C. アクションボタン

D. ブックマーク

Answer: ([解答を表示する](#))

Qlik Sense のストーリーテリングにより、ビジネス ユーザーはデータ インサイトに基づいて動的なプレゼンテーションを作成できます。この機能は、財務担当副社長など、会議で財務インサイトを共有する必要がある幹部に最適です。ストーリーテリングにより、ユーザーはデータ ビジュアライゼーションからガイド付きストーリーを作成でき、月次会議の議題に合わせて調整できるカスタマイズ可能なソリューションが提供されます。

重要な概念:

ストーリーテリング: この機能により、ユーザーは Qlik Sense ビジュアライゼーションからのスナップショットを使用してデータ主導のストーリーを作成でき、データの変更に応じて更新できる動的なカスタマイズされたプレゼンテーションが可能になります。

カスタマイズ可能: 財務担当副社長は、関連する財務指標と洞察に焦点を当てるために、毎月のプレゼンテーションをカスタマイズできます。

他のオプションがあまり適していない理由:

B. Insight Advisor チャット: このオプションは、対話形式でデータをクエリするのに便利ですが、経営陣に構造化された提示可能な形式でデータを提示するには適していません。

C. アクション ボタン: アクション ボタンは、アプリ内での移動や操作に使用されますが、プレゼンテーションの作成には関係ありません。

D. ブックマーク: ブックマークは特定の選択内容を保存しますが、会議に必要な動的で表示可能な形式は提供しません。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

Qlik Sense でのストーリーテリング: この機能は、特に経営幹部レベルの会議で、インタラクティブなデータ 駆動型のプレゼンテーションを作成する場合によく推奨されます。

したがって、ストーリーテリングは、カスタマイズ可能な形式で財務データを提示するための最も効果的なソリューションを提供するため、A が正解となります。

最新問題: 8

ビジネス アナリストは、ServiceNow のデータセットを使用してアプリを作成しています。データセットには、サポート ケースに関する情報 (ケースが開かれてから何日経過したか (経過期間) など) が表示されます。

アプリの要件は次のとおりです。

* ダッシュボードには、サポートケースを経過期間 (新規古くなった、サービスレベルアグリメントを超えた) に基づいてカテゴリ別に表示する必要があります。

* カテゴリはダッシュボードで複数回使用されます

* サポートケースの量を考えると、データセットが非常に大きくなることが予想されます。ビジネスアナリストがこのアプリを作成するための最も効率的な方法はどのソリューションですか?

- A. ServiceNow チームにソースデータセットにフィールドを作成するよう依頼します
- B. データ モデルに追加するすべての年齢値と対応するカテゴリを含む Excel シートを作成します。
- C. データマネージャのバケットオプションを使用して、カテゴリの新しいフィールドを作成します。
- D. ネストされた IF ステートメントを使用してマスター ディメンションを記述し、年齢をグループ化します。

Answer: C (メッセージを残す)

ダッシュボードの複数の場所で使用できるように、サポート ケースを経過時間 (新規、経過期間、SLA 超過) に基づいて効率的に分類するには、データ マネージャのバケット オプションが最も効率的な方法です。バケット化により、ビジネス アナリストは既存のフィールドの値 (この場合はサポート ケースの経過時間) に基づいて新しいカテゴリを作成できます。データセットは拡大することが予想されるため、Qlik Sense 内で直接カテゴリを作成することで、外部ツールや大規模なコーディングを必要とせずにプロセスを拡張できるようになります。

重要な概念:

バケット関数: 数値フィールドを定義済みの範囲またはカテゴリにグループ化できます。この関数は拡張性が高く、大規模なデータセットに適しています。

効率性: バケット化を使用して新しいフィールドを作成すると、分類がアプリ内で直接行われるため、パフォーマンスに影響を与える可能性のある外部データ ソースやネストされた IF ステートメントが不要になります。

他のオプションがあまり適していない理由:

A. ServiceNow チームにフィールドの作成を依頼します。これにより、外部チームへの依存関係が生じ、開発プロセスが遅れる可能性があります。

B. Excel シートを作成する: これにより、不必要な複雑さが増し、データセットの拡大に合わせて拡張できなくなります。

D. ネストされた IF ステートメントを使用してマスター ディメンションを記述します。これは機能する可能性がありますが、大規模なデータセットを処理するには効率が悪く、パフォーマンスが低下する可能性があります。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

データのバケット化: Qlik Sense では、特に大規模なデータセットを扱う場合には、定義済みの範囲またはカテゴリを作成するためにバケット化機能を使用することをお勧めします。

したがって、バケット オプションを使用してカテゴリの新しいフィールドを作成するのが最も効率的なソリューションであり、C が正解となります。

最新問題: 9

ビジネスアナリストは、ダッシュボードに配置するさまざまなフィルターパネルのリクエストを複数受け取ります。ユーザーは、さまざまなフィールドのさまざまな値でフィルター処理する必要があります。

ユーザーがニーズを満たすために学習する必要がある Qlik Sense の機能はどれですか？

- A. スマート検索
- B. データモデルビューア
- C. 洞察カアドバイザー
- D. 管理されたセルフサービス

Answer: ([解答を表示する](#))

ユーザーが Qlik Sense ダッシュボード内のさまざまなフィールドや値をフィルターする必要がある場合、最も効率的に使用できる機能はスマート検索です。スマート検索を使用すると、ユーザーはデータモデル内のすべてのフィールドをすばやく検索できるため、関連する情報を見つけて、効率的にフィルターを適用できます。

- A. スマート検索

これは正しいオプションです。スマート検索を使用すると、ユーザーは検索語を入力してデータモデル内のすべてのフィールドで一致を検索できるため、迅速かつ直感的なフィルタリングが可能になります。これにより、ユーザーは特定のデータポイントを見つけたり、複数のフィールドを一度にフィルタリングしたりできるため、複数のフィルターパネルが必要な場合に非常に効率的になります。

- B. データモデルビューア

データモデルビューアは、モデル内のデータテーブル間の関係を視覚的に表現します。データ構造を理解するのに便利ですが、データのフィルタリングやユーザーによるデータ操作のためのツールではありません。

- C. インサイトアドバイザー

Insight Advisor はガイド付き分析用に設計されており、ユーザーのクエリに基づいて提案を提供し、視覚化を生成します。Smart Search のような包括的なフィルタリング機能は提供されません。

- D. 管理されたセルフサービス

ガバナンスされたセルフサービスとは、データガバナンスの制御を維持しながら、ユーザーに独自の視覚化を作成する柔軟性を提供することとのバランスを指します。これは、スマート検索と同じようにデータをフィルタリングしたり検索したりすることとは関係ありません。

主な Qlik Sense ビジネスアナリスト参考資料:

Qlik Sense のスマート検索は、すべてのフィールドにまたがる高速でインタラクティブな検索機能を提供するように設計されており、使いやすいインターフェースで複雑なフィルタリングを可能にします。

この機能により、ユーザーは複数のフィールドを同時にフィルタリングできるため、多様なデータセットを分析する際の時間と労力を節約できます。

したがって、異なるフィールドにわたる複数の値をフィルタリングするための適切な機能は、スマート検索です。

最新問題: 10

マーケティング チームは、ユーザーが制御できる棒グラフを提供して、限られた数の製品の売上を表示する必要があります。視覚化にはいくつかの要件があります。

* 上位5つの製品から開始

* 表示される商品の数をユーザーが変更できるようにします

* ミニチャートですべての製品をスクロールできます

ビジネス アナリストはバー チャットと変数を作成します。次にビジネス アナリストが完了する必要がある手順はどれですか。

A. * スライダーオブジェクトを追加し、変数を使用してその値を設定します

* バーの数をカスタムに設定し、変数を使用してその値を設定します

B. * 変数を使用して制限を修正します

* ユーザーが必要な値を入力できるように入力ボックスを追加します

C. * 変数を使用して制限を修正します

* スライダーオブジェクトを追加し、変数を使用してその値を設定します

D. * スライダーオブジェクトを追加し、変数を使用してその値を設定します

* プロパティを使用してバーの数をカスタムに設定します

Answer: ([解答を表示する](#))

棒グラフに表示される製品の数を制御するという要件を満たすには、ビジネス アナリストは変数に関連付けられたスライダー オブジェクトを使用する必要があります。変数には、ユーザーが表示したい製品の数が格納されます。棒グラフのプロパティの [外観] セクションで、アナリストは変数を使用して棒の数をカスタム値に設定し、表示される製品の数をユーザーが動的に変更できるようにします。

重要な概念:

スライダー オブジェクト: 棒グラフに表示される製品の数をユーザーが簡単に調整できるようにします。

カスタム バーの制限: 表示されるバーの数を変数によって制御されるカスタム値に設定することで、ビジネス アナリストは、表示される製品の数をユーザーが動的に調整できるようにします。

他のオプションがあまり適していない理由:

B. 変数を使用して制限を修正し、入力ボックスを追加します。これは機能しますが、値を動的に調整する場合、入力ボックスよりもスライダーの方が優れた直感的なユーザー エクスペリエンスを提供します。

C. 変数を使用して制限を修正し、スライダーを追加します。これはほぼ正しいですが、変数を使用してバーの数をカスタム値に設定する手順が抜けています。

D. スライダー オブジェクトを追加して値を設定しますが、カスタム バー設定は行いません。スライダーを追加するのは正しいのですが、変数を使用してバーの数をカスタムに設定しないと、表示される製品の数をユーザーが動的に制御できなくなります。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

変数とスライダーを使用した動的制御: Qlik Sense のベスト プラクティスでは、特に表示されるデータを動的に制限する場合に、スライダーと変数を使用してユーザーが視覚化を制御できるようにすることが推奨されています。

したがって、スライダー オブジェクトを追加し、バーの数を変数によって制御されるカスタム値に設定することが最善の解決策であり、A が検証済みの回答になります。

最新問題: 11

アプリは、.csv テキスト ファイルから数百行のデータを読み込む必要があります。このファイルは、複数の国にまたがる複数の部門による連結データ ダンプの結果です。これらの部門は異なる内部システムとプロセスを使用しているため、国名の表示が異なります。たとえば、アメリカ合衆国は、いくつかの場所では「USA」、「USA」、または「US」と表示されます。

国ディメンションがアプリ内で適切に機能するには、データ モデル内で国の命名を標準化する必要があります。

この問題に対処するために、ビジネスアナリストはどのアクションを実行する必要がありますか？

- A. 計算されたマスターディメンション式を作成する
- B. 値を変換するためのルックアップテーブルをロードします
- C. 読み込む前にソーステキストファイルをクリーンアップします
- D. データマネージャの置換オプションを使用する

Answer: B (メッセージを残す)

Qlik Sense では、異なるシステムや部門間で一貫性のない命名規則 (国名のバリエーションなど) を扱う場合、ロード プロセス中にデータを標準化することがベスト プラクティスです。これを実現するには、ルックアップ テーブルを使用するのが最も効率的な方法です。これには、標準化されたバージョンとともに国名のすべてのバリエーションを含む別のテーブルをロードすることが含まれます。ロード プロセス中に、Qlik Sense はさまざまな名前を共通の値にマッピングできます。

重要な概念:

ルックアップ テーブル: ルックアップ テーブルには、データ要素の異なるバージョン (国名など) が 1 つの標準値にマップされるキーと値のペアが含まれます。この場合、ルックアップ テーブルには USA、USA、US などのエントリがすべてアメリカ合衆国にマップされる可能性があります。

データの標準化: これは、データセット全体で一貫した分析を保証するために重要です。国名のバリエーションを単一の統一した値に変換することで、ビジネス アナリストは、すべてのデータ視覚化と分析で「USA」、「US」などが同一のエンティティとして扱われることを保証します。

他のオプションがあまり適していない理由:

- A. 計算されたマスター ディメンション式を作成します。理論的には、計算された式を作成してバリエーションを処理することで機能しますが、特に将来のデータ ロードで国名の新しいバリエーションが出現する可能性があるため、拡張性や保守性がありません。
- C. ロードする前にソース テキスト ファイルをクリーンアップする: このオプションでは、生データ ファイルを手動で変更する必要がありますが、これは時間がかかり、データが頻繁に更新される場合やバリエーションの数が多い場合には持続可能ではありません。
- D. データ マネージャーの置換オプションを使用する: データ マネージャーの置換オプションは小規模であれば機能しますが、毎回手動で介入する必要がありますため、新しいデータがロードされる場合には効率的でも持続可能でもありません。また、複数のデータ ロードにわたる体系的な問題を処理するよりも、1 回限りの修正に役立ちます。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

データ モデリングのベスト プラクティス: ルックアップ テーブルは、複数のソース間でデータが不一致になる問題を解決するための一般的なアプローチです。これにより、視覚化でデータが一貫して表現され、手動による介入の必要性が軽減されます。

ロード中のデータ クレンジング: Qlik Sense では、データ ロード プロセス中にデータの変換とクレンジングを実行できます。ルックアップ テーブルはこの機能の一部であり、アプリにロードされたデータがクリーンかつ一貫していることを保証します。

このシナリオでは、ルックアップ テーブルを使用することが国名を標準化するための最もスケーラブルで保守可能なアプローチであるため、オプション B が検証済みのソリューションです。

最新問題: 12

ビジネス アナリストは、顧客と協力してエンド ユーザー エクスペリエンスを改善しようとしています。顧客には次の要件があります。

- * これらのチャートを特定のユーザーグループに提供する機能
- * チャート間のナビゲーションクリック数を最小限に抑える
- * チャートを切り替える際の画面応答時間を最速化
- * 画面スペースを考慮してチャートのサイズを最大化する

要件を満たすためにビジネスアナリストはどのようなアクションを実行する必要がありますか？

- A. すべてのチャートに条件付き表示を使用し、チャートを同じ場所に重ねて表示します
- B. 必要なチャートをすべて 1 つのシートにまとめた 1 つのシートを作成します。
- C. コンテナオブジェクトを使用して必要な視覚化をホストします
- D. 複数のシート (クライアントごとに 1 つのシート) を作成し、ボタンを使用してシート間を移動します。

Answer: C (メッセージを残す)

ナビゲーションクリックを最小限に抑え、画面領域を最大限に活用し、応答時間を短縮するための最適なソリューションは、コンテナ オブジェクトを使用することです。コンテナ オブジェクトを使用すると、ビジネス アナリストは 1 つの視覚化内に複数のグラフを配置できるため、ユーザーは最小限のナビゲーションでグラフを簡単に切り替えることができ

ます。また、一度に1つのグラフのみがレンダリングされるため、画面の応答時間が向上します。

重要な概念:

コンテナ オブジェクト: この機能を使用すると、複数のチャートを1つのオブジェクトに配置できるため、ナビゲーションのクリックが最小限に抑えられ、画面領域が最大化され、ユーザーは同じビュー内でチャートを切り替えることができます。

高速応答時間: 一度に表示されるグラフは1つだけなので、レンダリング パフォーマンスが最適化され、視覚化を切り替える際の応答が高速になります。

他のオプションがあまり適していない理由:

A. 条件付き表示: 複数のグラフが同時にレンダリングされ、応答時間が遅くなるため、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

B. すべてのグラフを1つのシートにまとめる: 画面が乱雑になり、グラフのサイズが小さくなるため、ユーザー エクスペリエンスが最適化されません。

D. ナビゲーション用のボタンが付いた複数のシート: これによりナビゲーションのクリック数が増加し、ナビゲーションを最小限に抑えるという要件に反します。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

複数のビジュアライゼーション用のコンテナ オブジェクト: 最小限のナビゲーションと最大限の画面領域で複数のチャートを表示する必要がある場合、Qlik Sense ではコンテナ オブジェクトの使用を推奨します。

したがって、コンテナ オブジェクトを使用して必要な視覚化をホストするのが最善の解決策であり、C が検証済みの答えになります。

最新問題: 13

ビジネス アナリストは、すべての製品について次の指標間の相関関係をユーザーが分析できるようにするグラフを作成する必要があります。

* 製品売上 (ドル)

* 注文量

* マージン%

ビジネスアナリストはどの視覚化を使用すべきでしょうか?

A. マルチKPI

B. コンボチャート

C. 散布図

D. ピボットテーブル

Answer: ([解答を表示する](#))

散布図は、製品売上高 (\$)、注文量、利益率の相関関係を分析するのに最適な視覚化です。散布図は、2 つ以上の連続変数の関係を示すのに最適であり、これらの指標間の傾向や相関関係を識別するために重要です。

重要な概念:

散布図: このチャートの種類は、メジャー間の相関関係を表示するように特別に設計されており、製品の売上、注文量、利益率の関係を視覚化するのに最適です。

複数のメジャー: Qlik Sense の散布図では、X 軸と Y 軸に 2 つのメジャーをプロットでき、色やバブルを使用して追加のメジャー (マージン % など) を表すことができます。

他のオプションがあまり適していない理由:

- A. マルチ KPI: マルチ KPI では複数のメトリックが表示されますが、それらの相関関係は表示されません。
- B. コンボ チャート: コンボ チャートは棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたものですが、複数の連続した測定値間の相関関係を分析するには適していません。
- D. ピボット テーブル: ピボット テーブルはデータの集計には便利ですが、測定値間の相関関係を明確に視覚化することはできません。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

相関分析のための散布図: 複数の連続変数間の関係を調べる場合、Qlik Sense では散布図が推奨されます。

したがって、散布図は、製品売上、注文量、利益率の相関関係を分析するための最も効果的な視覚化であり、正解は C になります。

最新問題: 14

ビジネス アナリストは、数十万行のデータを含む複数の Excel ファイルからデータ モデルを作成しています。要件は次のとおりです。

- * ユーザーは、利用可能なデータセット内のさまざまな詳細をドリルダウンする必要があります。
- * 複数の最終メジャーが繰り返し使用されます。これらの最終メジャーでは、複数のフィールドを 1 つのテーブルに結合する必要があります。
- * ユーザー エクスペリエンスと読み込み時間は最優先事項です。

これらの要件を満たすためにビジネスアナリストはどのようなアクションを取る必要がありますか?

- A. ソース期間にデータを集計する
- B. 必要なソースフィールドを使用してマスターアイテムを開発する
- C. データマネージャーの計算項目でさまざまなソースフィールドを結合します。
- D. ソースフィールドを結合し、Excel で追加のフィールドを作成します。

Answer: B (メッセージを残す)

Qlik Sense では、マスター アイテムを作成することで、ビジネス アナリストはアプリ全体で一貫して使用されるフィールド、ディメンション、メジャーを定義できます。これは、繰り返し使用されるメジャーの場合に特に重要です。これらをマスター アイテムとして定義することで、すべての計算が一貫しており、ユーザー エクスペリエンスとパフォーマンスが最適化されていることが保証されます。このアプローチは、応答性の高いユーザー エクスペリエンスを確保しながら、ドリルダウン機能もサポートします。

重要な概念:

マスター アイテム: マスター アイテムは、ディメンション、メジャー、および視覚化の再利用可能な定義です。メジャーをマスター アイテムとして作成すると、さまざまな視覚化で使えるようになり、一貫性が確保され、作業の重複が削減されます。

ユーザー エクスペリエンスと読み込み時間: マスター アイテムを使用すると、Qlik Sense がこれらのアイテムの結果をキャッシュするため、パフォーマンスが最適化され、使用するたびに複雑なメジャーを再計算する必要性が減ります。

他のオプションがあまり適していない理由:

A. ソース期間にデータを集約します。集約によってデータ量は削減できますが、ユーザーが必要とする詳細レベルまでドリルダウンする機能が制限されます。

C. データ マネージャーで計算項目のさまざまなソース フィールドを結合します。計算フィールドを作成することもできますが、この方法はマスター項目ライブラリでメジャーを定義するよりも効率が悪くなります。マスター項目の外部で行われた計算は、各視覚化で手動で繰り返す必要があり、不整合が発生します。

D. ソース フィールドを結合し、Excel で追加のフィールドを作成する: これは、Qlik Sense 外部のソース データの変更依存し、不要なデータの重複や非効率性につながる可能性があるため、ユーザー エクスペリエンスや読み込み時間を最適化できません。

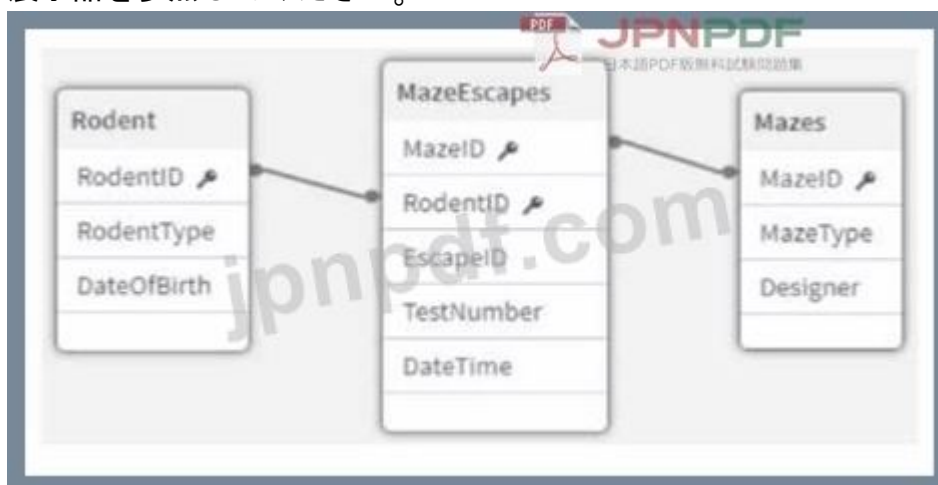
Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

マスター アイテムのベスト プラクティス: Qlik Sense では、パフォーマンスを向上させ、複数のビジュアライゼーション間で一貫性を確保するため、一貫したメジャー定義と再利用のためにマスター アイテムの使用を推奨しています。

マスター アイテムを作成することにより、ビジネス アナリストは合理化された効率的なユーザー エクスペリエンスを保証し、B をこのシナリオに最適な検証済みのオプションにします。

最新問題: 15

展示品を参照してください。



迷路を進むげっ歯類 (ネズミなど) の実験を追跡するアプリが開発されています。個々のげっ歯類は Rodent テーブルにカタログ化され、Mazes テーブルには迷路のメタデータがあります。MazeEscapes テーブルには、げっ歯類による迷路の各試行の記録が保持されま

す。ビジネスアナリストは、ユーザーが任意の迷路で少なくとも1回試行したげっ歯類の数を確認できる KPI を構築する必要があります。

アナリストは KPI をどのように構築すべきでしょうか？

A. * MazeEscapes テーブルに RodentID AS RodentID_Counter を作成します。

* KPI 式として Count (Distinct RodentID Counter) を使用します。

B. * Rodent テーブルに1つの AS RodentID_Counter を作成します。

* KPI 式として Sum (RodentID Counter) を使用します。

C. MazeEscapes テーブルに1つの AS RodentID_Counter を作成します。

KPI 式として Sum (RodentID Counter) を使用します。

D. * Rodent テーブルに RodentID AS RodentID カウンターを作成します。

* KPI 式として Count (Distinct RodentID Counter) を使用します。

Answer: A (メッセージを残す)

この場合、迷路を少なくとも1回は試みたげっ歯類の数を数える必要があります。Rodent テーブルと MazeEscapes テーブルの関係は1対多の関係(各げっ歯類が複数の迷路を試みることができる)であるため、げっ歯類の試みの実際の記録が保持されている

MazeEscapes テーブルに基づいて計算を行うのが最善のアプローチです。

MazeEscapes テーブルに新しいフィールド RodentID_Counter を作成することで、アナリストは各げっ歯動物の試行が確実に記録されるようにします。Count (Distinct

RodentID_Counter) を KPI 式として使用すると、同じげっ歯動物による複数の試行をカウントすることなく、少なくとも1回試行した各げっ歯動物を正確にカウントできます。

重要な概念:

個別のカウント: 個別のカウントにより、迷路を複数回試みたげっ歯類が1回だけカウントされることが保証されます。

MazeEscapes テーブル: このテーブルには各試行の記録が保持されるため、この KPI の正しいソースになります。

他のオプションがあまり適していない理由:

B. Rodent テーブルの合計 (RodentID_Counter): これにより、一意の試行回数をカウントするのではなく、誤ってげっ歯類の数を合計してしまい、結果が不正確になります。

C. MazeEscapes テーブルの合計 (RodentID_Counter): カウンターを合計すると、個別のげっ歯類が考慮されず、カウントが不正確になります。

D. Rodent テーブルの RodentID_Counter: Rodent テーブル内のすべてのげっ歯類が迷路に挑戦したわけではないため、これは挑戦したげっ歯類を正確に反映しません。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

KPI の個別のカウント: このシナリオで個別のげっ歯動物をカウントするなど、固有のカウントを必要とする KPI を操作する場合は、Count(Distinct ...) を使用するのがベストプラクティスです。

したがって、A は、MazeEscapes テーブルでの試行に基づいて各げっ歯類が1回カウントされることを保証するため、検証済みの回答です。

最新問題: 16

ある会社には販売データがあり、各顧客 ID を 1 つ以上の販売アカウント ID に割り当てることができます。販売アカウントは 8 つのグループのいずれかに割り当てられます。ビジネスアナリストは、次の要件を満たすアプリを作成しています。

* 各グループには別々のシートが必要です

* セールスアカウントは自身の顧客のみを閲覧できます

* セールスアカウントは、割り当てられたグループのシートにのみ移動できます。ビジネスアナリストは、各セールスアカウント ID に顧客 ID が割り当てられているセクションアクセステーブルを作成しました。ビジネスアナリストは次にどのようなアクションを実行する必要がありますか。

A. 関連するシートの表示/非表示条件のフィルターとして販売アカウントIDを使用します。

B. グループを関連シートの表示/非表示条件のフィルターとして使用します。

C. セクションアクセステーブル内のグループフィールドを使用して、シートの表示/非表示条件に適用します。

D. シートの表示/非表示条件内でOSUser()関数を使用して、必要な可視性を設定します。

Answer: C (メッセージを残す)

グループの割り当てに基づいてシートアクセスを制御する最も効果的な方法は、セクションアクセステーブルのグループフィールドを使用して、シートの表示/非表示条件に適用することです。各セールスアカウントIDはすでにグループにマップされているため、ビジネスアナリストはこのグループフィールドを使用して、ユーザーのグループ割り当てに基づいてどのシートを表示するかを動的に制御できます。これにより、各セールスアカウントにはそれぞれのグループのシートのみが表示されます。

重要な概念:

グループを使用したセクションアクセス: グループフィールドをセクションアクセスに組み込むことで、アナリストはグループメンバーシップに基づいてシートの表示を制限できます。

表示/非表示条件: Qlik Sense のこの機能を使用すると、条件 (この場合はユーザーのグループ) に基づいて特定のシートまたはオブジェクトを表示または非表示にすることができます。

他のオプションがあまり適していない理由:

A. フィルターとしての Sales Account ID: Sales Account ID はデータのフィルタリングに使用されますが、シートの表示を制御するための適切な条件ではありません。

B. シート上のフィルターとしてのグループ: グループは条件として使用できますが、適切な表示制御を確保するには、セクションアクセスを通じて管理する必要があります。

D. OSUser() 関数: OSUser() はユーザーのログイン情報を取得できますが、セクションアクセスのグループフィールドを使用すると、グループの割り当てに基づいて特定のシートへのアクセスを制御するのがより効率的です。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

セクション アクセスに基づいてシートを表示/非表示にする: Qlik Sense は、ユーザー ロールとグループの割り当てに基づいてシートへのアクセスを制御するためのセクション アクセスの使用をサポートしています。

したがって、C は、セクション アクセス内のグループ フィールドを使用してシートの表示を制御するため、最も適切なソリューションであり、正解となります。

有効な **QSBA2024** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい QSBA2024 試験問題集! GoShiken.com が最新の **QSBA2024** 試験問題集を提供しています。

GoShiken.com QSBA2024 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com QSBA2024 問題集をゲットする人はこちら:

<https://www.goshiken.com/Qlik/QSBA2024-mondaishu.html> (5230%OFF問題集溶と正解付きで 30%w 特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: 17

人事部門は、標準偏差指標を使用して部門別に分類された給与の分布を確認する必要があります。

開発者はどの視覚化を使用すべきでしょうか?

- A. 分布図
- B. ボックスプロット
- C. ヒストグラム
- D. 散布図

Answer: B (メッセージを残す)

ボックス プロットは、標準偏差指標を使用して部門別に給与の分布を表示するのに最適な視覚化です。ボックス プロットは、四分位数、中央値、外れ値などの主要な指標を含むデータの広がりを示し、給与分布の分析に役立ちます。また、データの広がりを通じて標準偏差指標も自然に組み入れられます。

重要な概念:

ボックス プロット: このタイプのグラフは、さまざまなカテゴリ (この場合は部門) にわたるデータの分布を分析するために設計されています。データの広がりと変動性 (標準偏差を含む) が表示されます。

他のオプションがあまり適していない理由:

- A. 分布プロット: 分布プロットは広がりを示すことができますが、標準偏差を示すのにはそれほど効果的ではなく、カテゴリ別の内訳にはあまり適していません。
- C. ヒストグラム: ヒストグラムは単一の変数の分布を示しますが、ボックス プロットと同じ詳細な内訳は提供されません。
- D. 散布図: 散布図は 2 つの変数間の関係を示すために使用され、部門間の標準偏差を示すのには適していません。

Qlik Sense Business Analyst の参考資料:

分布分析のためのボックス プロット: ボックス プロットは、カテゴリ間のデータ分布と変動を視覚化するのに理想的であり、部門別の給与分布を分析する場合に適しています。したがって、ボックス プロットは標準偏差指標を使用して給与分布を視覚化するのに最適な選択であり、B が検証済みの答えになります。

Valid QSBA2024 Dumps shared by GoShiken.com for Helping Passing QSBA2024 Exam! GoShiken.com now offer the **newest QSBA2024 exam dumps**, the GoShiken.com QSBA2024 exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get the **newest** GoShiken.com QSBA2024 dumps with Test Engine here: <https://www.goshiken.com/qlik/QSBA2024-mondaishu.html> (52 Q&As Dumps, **30%OFF Special Discount: Freepdfdumps**)